レスキュークリニック
海上編

R6. （一社）日本レーザークラス協会

Question

・強風でのレース中、同時に複数の
沈艇（選手）が発生
救助要請？

対処方法がイメージできますか？

本日の目的

- 同時多発した救助の場面で適切かつ迅速に動ける

そのために・・・

・事前に準備しておく事柄を知る

・基本的な結索・救助技術を習得する

AM

目

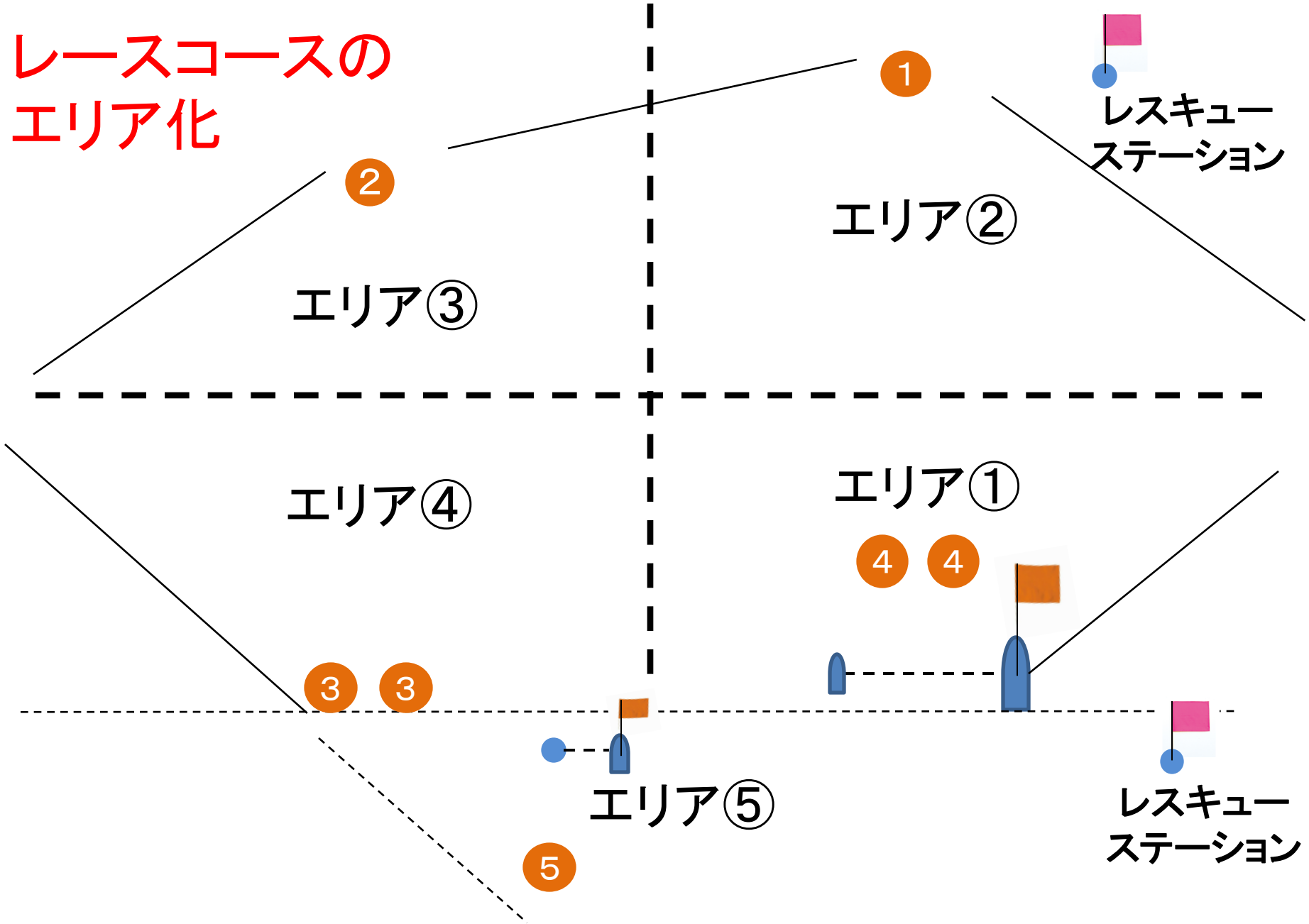
1. 早期発見・観察・判断・連絡
2. 救助
3. セーラー搬送・艇の係留、回収
4. 備え

１　早期発見・観察・判断・連絡

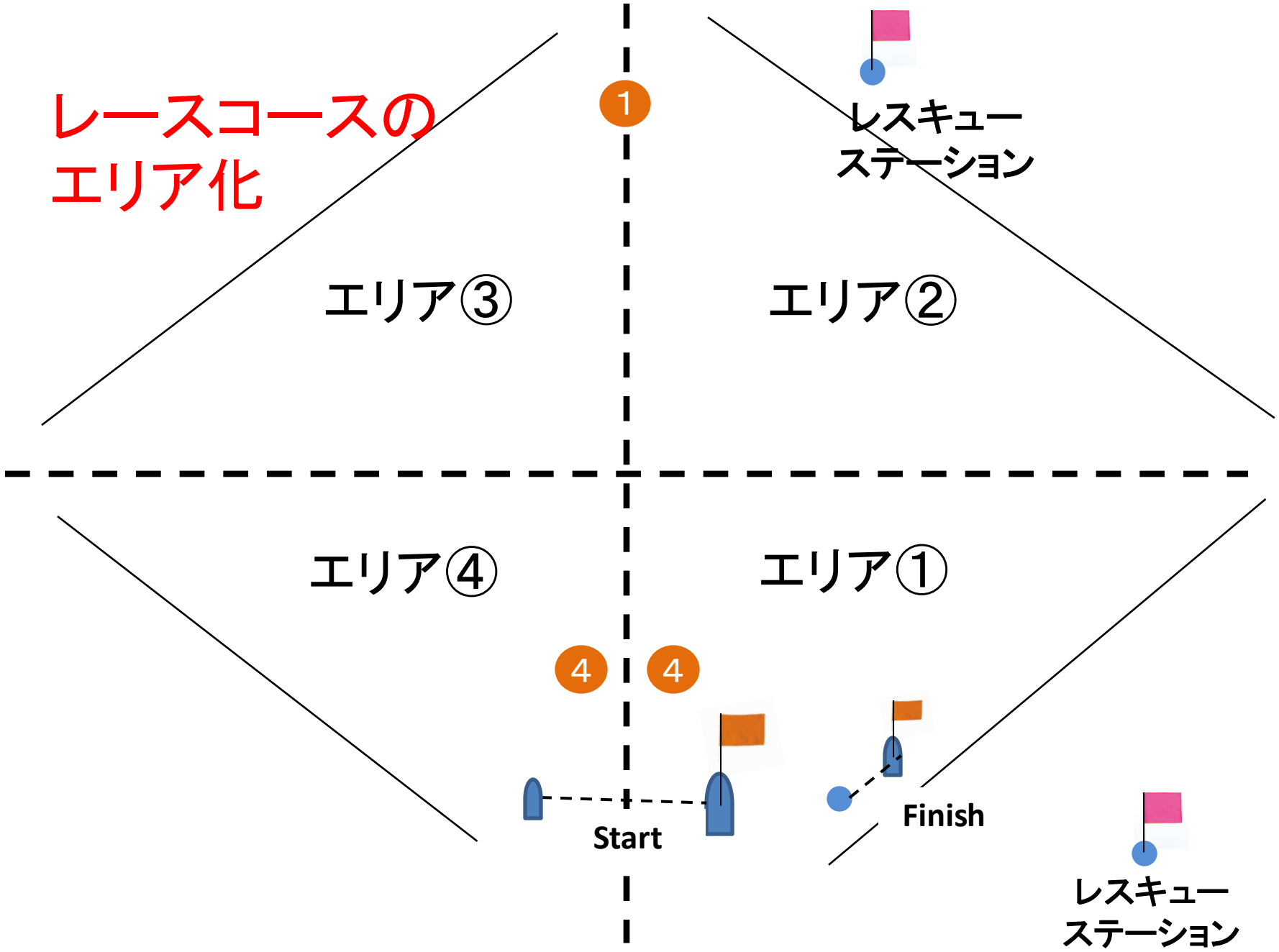
・レースコースのエリア化

広いレースエリアで早期発見、場所の共有が可能になる

レースコースのエリア化



レースコースのエリア化



1　早期発見・観察・判断・連絡

到着までの観察

到着後の観察

1　早期発見･観察･判断･連絡

判断

救助 なのか 見守りか？

1　早期発見・観察・判断・連絡

無線交信 要領に準じて

a クラス

b セールNo

c 状況 (性別、意識の有無）

2. 救助

人命救助: セーラー引揚

一人法

二人法

一人法

一人法

二人法

-

3. セーラー搬送・艇の回収

a. 呼びかけ (意識確認）

b. 保温

c. 水分補給

d. 止血

3. セーラー搬送・艇の係留・マーキング

・艇の係留
・マーキング：衝突防止（バウ付近に外部から視認できる　ブイ、マーク
をくくり付ける）

4. 備え

・仲間に知らせるために

サポート艇との連携
無線機 (携帯電話）
運営艇
支援艇リスト

4. 備え

ツールの紹介

- ヨットタイマー
- GPS
- ホイッスル
- ビニテ
- 無線機
- カラビナ
- 60.80.120ロープスリング
- 工具

4. 備え

・レスキューボートでの救助準備

a アンカー、ロープの準備

＊コイル状態は失敗の元

b ボートフックの活用

c 救助に有効な機材準備

（テープスリング、カラビナets）

・レスキューステーションの活用

曳航が困難な場合や一時係留の場として活用

その他活用できるツールの紹介

テープスリング、カラビナ、ロープBOX（収納用）、ボートフック

救助用具として：浮環の活用

まき結び＋ひと結び
（クラブヒッチ＋ハーフヒッチ）

浮環＋ロープ
＊投げてもつれない様に準備

水深を知ることでの時間短縮

- 水深の確認（水深計の活用）

- 5kg以上のアンカー（チェーン付）を使用して
  アンカーリング（水深の1.5倍以上）事前準備

レーザーバウラインの活用方法

＊緊急時のみ活用し、主たる曳航ロープには使用しない

＊レスキュー艇は救助、曳航用ロープを準備

一時救助：10m程度のロープがあると便利

曳航時　：20m程度のロープを用意

結索

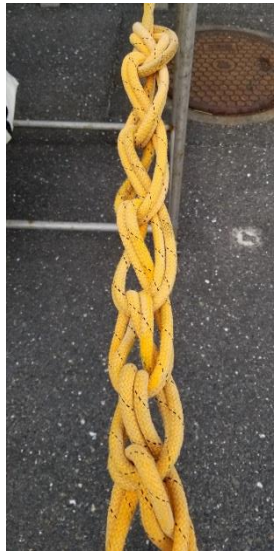
曳航・救助に使うロープの結索

もやい結び
＠どちらの方向からでも結べる事

ふた回りふた結び
＠引っ張られた状態でも結びやすく
解索しやすい

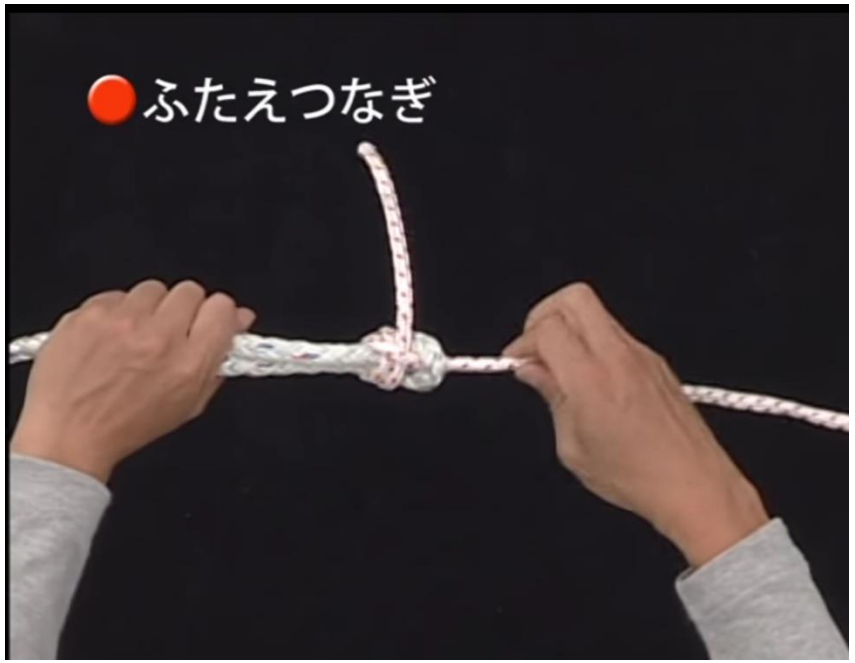
もやい結び＋ハーフヒッチ
＠解脱しにくくするためにハーフを加える

まき結び（クラブヒッチ



チェーンノット（長いロープの短縮/曳航時に活用）

ひとえつなぎ/ふたえつなぎ



本結び

レスキュー 手順

1. セーラーの観察/救助
   ・・・容態観察・意識の確認
   ・・・レスキュー艇への引揚
2. 連絡/連携・・・シグナル船
3. 漂流・衝突防止・・・アンカーリングとマーキング

体制を整えて

↳ 艇の回収

想定訓練　1

帆走不能のセーラーを発見

＊ スタート前 沈を起こすことができないが元気な状態

① 発見 / 通報

② 救助・・・海上から選手をボートへの引揚

③ 沈艇の復元

　a 曳航準備

　b 曳航

④ レスキューステーションへ係留

想定訓練　２

帆走不能のセーラーを発見、救助
＊ レースエリアにおいて、沈を繰り返す艇を発見
　疲労困憊の様子！

① 発見 / 通報
② 救助・・・海上からボートへの引揚
③ 二次災害防止の設定
　a 艇のアンカーリング
　b 衝突防止処置 (マーキング）
④ 搬送